

令和8年度
大学院修士課程技術科学研究科
情報アクセシビリティ専攻

教育課程



国立大学法人
筑波技術大学

授業時間

時限	授業時間(90分)及び休憩時間
1	8:50~10:20
休憩	10:20~10:30
2	10:30~12:00
休憩	12:00~13:00
3	13:00~14:30
休憩	14:30~14:40
4	14:40~16:10
休憩	16:10~16:20
5	16:20~17:50
休憩	17:50~18:00
6	18:00~19:30 ※教職課程のみ

令和8年度 筑波技術大学大学院学年暦

第1学期(4月1日～9月28日)

学年開始	4月 1日(水)
春季休業	4月 1日(水)～4月 2日(木)
入学式	4月 3日(金)
新入生オリエンテーション等	4月 6日(月)～4月 7日(火)
第1学期授業開始	4月 8日(水)
学生定期健康診断	4月 23日(木) 天久保キャンパス 4月 24日(金) 春日キャンパス
補講日	6月 26日(金)
第1学期授業終了	7月 30日(木)
第1学期期末試験	7月 31日(金)～8月 6日(木)
夏季休業	8月 7日(金)～9月 28日(月)

第2学期(9月29日～3月31日)

第2学期授業開始	9月 29日(火)
開学記念日	10月 1日(木)
冬季休業	12月 26日(土)～1月 11日(月)
補講日	1月 12日(火)
第2学期授業終了	2月 2日(火)
第2学期期末試験	2月 3日(水)～2月 9日(火)
春季休業	2月 10日(水)～3月 31日(水)
学位記授与式	3月 19日(金)
学年終了	3月 31日(水)

(備考)

- 1 学生の定期健康診断実施日は、臨時休業とする。
- 2 4月29日(水)昭和の日は祝日だが、通常授業を実施する。
- 3 5月7日(木)は臨時休業とする。
- 4 7月22日(水)は振替授業日とし、月曜日授業を実施する。
- 5 7月30日(木)は振替授業日とし、春日は金曜日授業、天久保は木曜日授業を実施する。
- 6 10月14日(水)は振替授業日とし、月曜日授業を実施する。
- 7 11月20日(金)は学校推薦型選抜・社会人選抜実施に伴う臨時休業とする。
- 8 11月26日(木)は振替授業日とし、月曜日授業を実施する。

令和8年度 筑波技術大学大学院学年暦カレンダー

第 1 学 期							
曜日	日	月	火	水	木	金	土
4				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	△23	△24	25
	26	27	28	○29	30		
5						1	2
	○3	○4	○5	○6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31						
6		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30				
7				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	○20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	
8							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	○11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					
9			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	○21	○22	○23	24	25	26
	27	28	29	30			
計		15	15	15	15	15	

第 2 学 期							
曜日	日	月	火	水	木	金	土
10			9/29	9/30	1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	○12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31
11	1	2	○3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	○23	24	25	26	27	28
	29	30					
12			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		
1						○1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	○11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
2							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	○11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	○25	26	27	28	29
3							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	○24	○25	26	27	28	29
計		15	15	15	15	15	

※4月29日(水)は祝日(昭和の日)だが授業実施

※5月7日(木)は休業

※6月26日(金)は補講日

※7月22日(水)は月曜授業を実施
 ※7月30日(木)は春日:金曜授業を実施
 天久保:木曜授業を実施

※10月14日(水)は月曜授業を実施

※11月20日(金)は学校推薦型選抜・社会人選抜実施に伴う臨時休業
 ※11月26日(木)は月曜授業を実施

※1月12日(火)は補講日

- 1 入学式4月3日 学位記授与式3月19日
- 2 新入生オリエンテーション等(4月6・7日)
- 3 授業休業
- 4 補講日
- 5 振替授業
- 6 期末試験
- 7 修士論文の提出日は、原則として1月の第3週の金曜日とする。

■ 下記祝日については通常授業を実施する。
 4月29日(水)(昭和の日)

■ 学期を次のとおりに分ける。
 第1学期 4月1日(水)から9月28日(月)
 第2学期 9月29日(火)から3月31日(水)

- 8 ○ 祝日等
- 9 △ 学生の定期健康診断のため、臨時休業
 (△天久保地区, △春日地区)※各1日実施予定

1 教育理念

情報アクセシビリティ専攻では、様々な学問分野から成り立つ「情報保障学」を広く社会に普及させ、高等教育機関で学ぶ聴覚・視覚障害学生が障害のない学生と同様の学修環境を確保するために、「情報保障学」に関する知識や技能を身につけた専門的かつ高度な支援者や教育者・研究者を育成することを目指します。これらの進路に即した内容を体系的に学修できるよう、障害者支援（聴覚障害）コース、障害者支援（視覚障害）コース、手話教育コースの3コースを設置しています。

2 教育目標

情報アクセシビリティ専攻では、聴覚・視覚障害者の社会自立や参加に貢献するための専門的かつ系統的な知識、情報、技術を提供しながら、障害者支援の中核的な役割を担いうる高度専門職業人及び情報保障に関する教育者・研究者を育成することを目標としています。

3 ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

情報アクセシビリティ専攻では、専門領域に関する系統的な専門知識と技術を持ち、情報保障を通じて障害者支援の中核的な役割を担いうる高度専門職業人を育成することを目指しています。そのため、以下の知識、能力を身につけた者に修士（情報保障学）の学位を授与します。

1. 情報保障学に関わる高度専門職業人としての理論的・実践的能力
2. 情報保障学に関わる教育、心理、医療、保健、福祉、労働及び工学等の分野について、専門性を深めることができる研究能力
3. 広い視野に立って障害者支援の諸課題に対応できる実践応用的な能力

【障害者支援（聴覚障害）コース】

聴覚障害（ろう・難聴）の障害特性、聴覚障害者のリハビリテーション・教育・コミュニケーション特性について理解を深めた上で、情報保障の技術習得を通じて共生社会の構築に貢献できる力

【障害者支援（視覚障害）コース】

視覚障害（盲・弱視）の障害特性、視覚障害者のリハビリテーション・教育・コミュニケーション特性について理解を深めた上で、情報保障の技術習得を通じて共生社会の構築に貢献できる力

【手話教育コース】

手話言語の言語的特性，手話言語使用者の生活文化，第二言語教育，音声言語と手話言語間の通訳について理解を深めた上で，手話言語の研究と教育を通じて共生社会の構築に貢献できる力

4 カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針について）

情報アクセシビリティ専攻では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）において示した知識と技術を学修するため、障害者支援（聴覚障害）コース，障害者支援（視覚障害）コース，手話教育コースの3つの領域を設け、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成しています。また、障害に配慮した教育方法・教育環境により、学生一人ひとりが必要な能力を身に付けるよう教育します。

1. 情報保障に関する理論的・実践的能力を身につけることを目標とし、共通科目として、聴覚・視覚障害に関するアクセシビリティ，リハビリテーション及び両障害に対する情報保障の理念と手段に関する授業を開設し、障害者支援の専門的・系統的な知識と技術を修得することのできる体系的な教育課程を編成・実施します。
2. 障害者支援（聴覚障害）コース，障害者支援（視覚障害）コース，手話教育コースにおいては、各々の専門領域の知見を深めるために、専門科目として、障害者支援（聴覚障害・視覚障害），手話教育，障害学生支援コーディネート・実習に関する授業を開設し、専門領域に関する高度な知識・技術を学修します。
3. 情報保障分野の研究を計画・遂行するために、文献調査，実験法・調査法等の各種研究法とデータ解析諸手法，プレゼンテーション方法を学修し、最先端の理論，技術などの情報を自主的に収集し、自らの課題を把握・分析でき、研究テーマに沿った研究計画を立案するとともに、

基礎知識や専門知識を統合して研究を遂行できる能力を身に付けます。

4. 修士論文の研究指導は、主指導教員と副指導教員との複数指導体制とし、自らの課題意識に即した研究を進め、専門性を高めます。

学修成果の評価としては、授業科目ごとに定めたシラバスにおいて授業内容と方法、達成目標と評価方法を明確に提示するとともに、到達目標の達成度に基づいて厳格に行います。

5 アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

障害者支援の中核的な役割を担いうる高度専門職業人および情報保障に関する教育・研究者を育成することを目標としています。そのため、上記目標を達成できるような資質や意欲を持った以下のような人材を求めています。

1. 障害者支援・情報保障を学ぶために必要な学力，コミュニケーション力と障害に対する理解を有し，情報アクセシビリティを高めるために様々な工夫をし，知識を活用できる人
2. 知的な好奇心を持って未知なる課題や困難な問題に積極的に取り組み，解決していく人
3. 高度で専門的な知識や技術を持つ支援者，教育・研究者として，社会に積極的に参加し，共生社会の実現とその発展に貢献しようとする人

入学者選抜方針

情報アクセシビリティ専攻の入学者選抜は，一般入試と社会人入試により行います。

一般入試

情報保障・障害者支援に関する知識，新しい技術に挑戦する意欲，専門的な学力等を総合的に評価し，選抜します。

社会人入試

社会人として得た実績や経験を基盤として，情報保障・障害者支援に対する知識，新しい技術に挑戦する意欲，専門的な学力等を総合的に評価し，選抜します。

目 次

I	教育課程の編成と履修方法	1
	1 コース	
	2 科目編成	
	3 修業年限	
	4 修了に必要な単位	
II	学修の方法	2
	1 開設授業科目	
	2 授業期間と授業時間	
	3 単位数の基準	
	4 履修年次	
	5 科目番号	
	6 必修科目と選択科目	
	7 授業実施と期末試験	
III	履修申請	4
	1 申請期間等	
	2 申請方法	
	3 申請にあつたての注意事項	
	4 成績の通知	
	5 入学前に大学院において履修した単位の認定について	
IV	課程修了	5
V	研究指導教員一覧	6

	[参考]情報アクセシビリティ専攻の教育課程編成	7
VI	授業時間割	10
VII	科目表	11
VIII	授業計画書（シラバス）	25
IX	関係規則	26

I 教育課程の編成と履修方法

1. コース

情報アクセシビリティ専攻には次の3つの履修コースが置かれています。

- ① 障害者支援（聴覚障害）コース
- ② 障害者支援（視覚障害）コース
- ③ 手話教育コース

2. 科目編成

情報アクセシビリティ専攻の授業科目は、「基盤科目」と「専門科目」で編成されており、「専門科目」はコース毎にその教育目的に沿って編成されています。

「専門科目」の中の「コース指定選択科目」は、各コースがその教育目標を達成するために独自に開設する科目です。

「専門科目」の中の「特別研究科目」は、修士論文を作成するための科目です。

3. 修業年限

本学学則に基づき、標準修業年限は2年、在学年限は4年です。

4. 修了に必要な単位

修了に必要な単位は下表のとおりです。

科目区分		履修単位数
基盤科目	情報アクセシビリティ研究特論 (必修)	2単位
	聴覚障害リハビリテーション特論 (選択)	18単位以上 (コース指定選択科目 2単位以上を含む) ※障害者支援（聴覚障害）
	視覚障害リハビリテーション特論 (選択)	
	聴覚障害情報保障特論 (選択)	
	視覚障害情報保障特論 (選択)	
専門科目	各コースの指定選択科目	コース及び手話教育コース のコース指定選択科目は共 通となる
	選択科目	
	特別研究科目	情報アクセシビリティ特別研究1 情報アクセシビリティ特別研究2
合計		30単位以上

Ⅱ 学修の方法

1 開設授業科目

- (1) 開設される授業科目は、一人又は複数の教員が担当しています。
- (2) 授業科目は、原則として時間割表に従い毎週決まった曜時限に開講されます。

授業科目によっては、夏季休業期間中など一定期間に数日間続けて授業が行われるもの（集中講義）もあります。集中講義の実施日程等の詳細については、授業担当教員による指示又は掲示で連絡します。

- (3) 授業科目の単位数は、講義、演習、実習などの授業の方法と授業時間数によって異なります。

授業計画については、後半の「授業計画書（シラバス）」を参照してください。

2 授業期間と授業時間

- (1) 授業期間は、毎年度学年暦で定められます。1学期は4月から9月まで、2学期は10月から3月までとなっています。

授業期間は、原則として学期ごとに16週となります。1学期間の16週は、15週の授業と1週の試験期間からなっています。

※令和7年度はでデフリンピック開催のため、天久保キャンパスと春日キャンパスで学年暦が異なりますので注意してください。

- (2) 授業時間は、90分の授業を（120分間の授業とみなし）1時限として定めています。

3 単位数の基準

授業は、講義、演習、実験、実習のいずれか又はこれらの併用により行われ、それぞれ1単位あたりの授業時間数が異なります。

4 履修年次

各開設授業科目については、履修年次が定められています。定められた年次に所定の科目を履修してください。

5 科目番号

授業科目には、科目番号が付されています。履修申請は、科目番号で行いますので注意してください。

6 必修科目、選択科目

授業科目には、必修・選択の別が示されています。

- (1) 必修科目は、専攻・コースにおける学修のために必ず履修しなければならない科目です。
- (2) 選択科目は、学生個々の関心や目的達成のため、学生自らが計画し自由に選択して履修する科目です。

7 授業実施と期末試験

- (1) 授業

授業担当教員は、履修申請に基づく受講者名簿によって、授業時

間ごとに受講者の出欠を確認します。

(2) 休講

大学行事又は授業担当教員の止むを得ない事由によって授業を行えない場合は、休講とし掲示で連絡します。

(3) 補講

授業が休講となった場合又はその他の事由で授業時間とは別に日時を定めて補講を行うことがあります。日時，教室等は掲示で連絡します。

(4) 授業の欠席

大学が定める通学が困難となる事由が発生した場合には、公欠が認められます。詳細は本学ホームページで確認して下さい。

URL:<https://www.tsukuba-tech.ac.jp/education/absence/koketsu.html>

(5) 期末試験

ア 学期ごとに期間を定めて期末試験を行います。この期間中は原則として平常の授業は行いません。(「学年暦」を参照)

イ 期末試験は、授業担当教員が指定した筆記試験，口頭試験，実技試験，レポート等の方法により行われます。

ウ 期末試験を止むを得ない理由で受けられない場合は、追試験を受けることができます。

エ 期末試験の結果は、次の「(6) 成績評価基準」により評価して受講者に通知します。

(6) 成績評価基準

(評価記号)	(点数)
A+	100点～90点
A	89点～80点
B	79点～70点
C	69点～60点
D	59点以下

(7) 単位認定と総合評価

ア 1学期間で終了する授業科目については、その学期末の試験結果によって成績を評価し、評価記号がA+，A，B又はCであるときは、単位が与えられます。評価記号D（不合格）には単位が与えられません。

イ 通年で行われる授業科目については、1学期末の試験結果により成績の仮評価を行い、学年末に1，2学期の成績をあわせて総合評価を行います。総合評価記号がA+，A，B又はCであるときは、所定の単位が与えられます。総合評価記号D（不合格）には単位が与えられません。

各授業科目の所定の単位を学期ごとに分割して与えることはできません。

Ⅲ 履修申請

授業科目を履修する際は、筑波技術大学大学院履修規程第5条に基づき、履修申請の手続きをしなければなりません。履修申請をしていない科目については、授業に出席し試験を受けても単位は認定されません。

次の点に注意し履修申請手続きを行ってください。

1 申請期間等

履修申請期間	令和8年4月8日（水） ～4月22日（木） 16：30まで
訂正履修申請期限	令和8年5月8日（金）16：30まで
第2学期訂正履修申請期間	令和8年9月29日（火） ～10月22日（木） 16：30まで

2 申請方法

年度当初に行われる新入生オリエンテーション、コースガイダンス等を参考に、各自が履修計画を立て、学務情報管理システム(AIMS)で履修申請を行ってください。

3 申請にあたっての注意事項

- (1) 本年度履修しようとするすべての授業科目について申請してください。
第2学期に開始するものや集中講義についても期限内に申請してください。
- (2) 都合により「開設授業科目」の内容が変更される場合がありますので、掲示等に注意し、必ず訂正された内容で申請してください。
- (3) 同じ時間帯に2つ以上の科目を申請することはできません。
- (4) 期間内に申請しなかった者は、特別の理由がない場合は本年度の履修を認めません。

4 成績の通知

成績評価は、授業科目の担当教員が期末試験の結果等を総合して行います。(試験実施要領参照)

各学期末の成績評価は、期末試験後、下記の時期を目安に、学務情報管理システム(AIMS)で各自確認を行ってください。

第1学期成績通知 9月下旬～(予定)

第2学期成績通知 3月下旬～(予定)

5 入学前に大学院において修得した単位の認定について

(1) 単位の認定

学則の規定に基づき、学生が大学院入学前に大学院又は他大学の大学院等において授業科目を履修し修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む）については、15単位を限度として、当該学生が所属するコースの修了要件となる単位として認定することがあります。

(2) 申請方法

認定を希望する学生は、「単位認定申請書」を本学大学院入学前の大学院における成績証明書及び授業計画書（シラバス）を添えて履修申請時に提出してください。

IV 課程修了

1 課程修了の流れ

修士課程を修了するためには、同課程に2年以上在学し、履修規程に定める30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえで、修士論文を提出してその審査及び最終試験に合格しなければなりません。

修士論文は、同課程に1年以上在学し、各コースで定めた論文提出に必要な単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた人が提出することができます。

修士論文の提出日は、各年度で定めますが、通常1月となります。

これ以外にも、2年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえで、論文等の審査及び最終試験に合格した者については、第1学期末課程修了ができるようになっています。

最終試験は、審査した修士論文について口頭試問によって行われます。課程の修了によって、次の学位が取得できます。

修士（情報保障学）

(Master of Information and Communication Accessibility)

2 研究指導の方法と計画

指導教員によって差はありますが、2時間程のゼミ発表が週に1回くらい、オンラインまたは対面形式であります。研究活動の進捗状況を評価し、今後の研究計画についてディスカッションを行います。その他、必要に応じて電子メールによる指導も行うことがあります。

研究計画は4月上旬から下旬にかけて、指導教員と相談しながら作成していただきます。

V 研究指導教員一覧

【聴覚障害系】

教員名		専門分野	E-mail
新井達也	教授	数学, 情報保障	tatsuya@a.tsukuba-tech.ac.jp
大杉豊	教授	手話言語学, ろう者学	osugi@a.tsukuba-tech.ac.jp
白澤麻弓	教授	情報保障, 手話通訳, 障害学生支援	shirasawa@a.tsukuba-tech.ac.jp
長南浩人	教授	聴覚障害児教育	chonan@a.tsukuba-tech.ac.jp
中島幸則	教授	スポーツ医学, 障害者スポーツ	nakajiyu@a.tsukuba-tech.ac.jp
三好茂樹	教授	情報保障, 感覚代行, 福祉工学	miyoshi@a.tsukuba-tech.ac.jp
小林洋子	講師	ろう者学, 手話言語教育, 社会福祉	yk-kobayashi@a.tsukuba-tech.ac.jp
笹目友香	助教	補聴とコミュニケーション	sasame@a.tsukuba-tech.ac.jp

【視覚障害系】

教員名		専門分野	E-mail
伊藤和之	教授	視覚障害者教育	itou-kazu@k.tsukuba-tech.ac.jp
青木千帆子	准教授	障害学, 情報アクセシビリティ	chihoko.aoki@a.tsukuba-tech.ac.jp
金堀利洋	准教授	福祉情報工学	kanahori@k.tsukuba-tech.ac.jp
宮城愛美	准教授	福祉情報工学	mmiyagi@k.tsukuba-tech.ac.jp
小林ゆきの	准教授	理論言語学, 統語論, 英語教育	yukino@k.tsukuba-tech.ac.jp
田中仁	准教授	基礎解析学, 解析学基礎	htanaka@k.tsukuba-tech.ac.jp

[参考]情報アクセシビリティ専攻の教育課程編成（令和5年度以前入学者対象）

履修年次	基盤科目	専 門 科 目			
	共通科目	障害者支援コース		手話教育コース	特別研究科目
		聴覚障害	視覚障害		
1年次	[選択必修]情報アクセシビリティ研究特論1 [選択必修]情報アクセシビリティ研究特論2 聴覚障害リハビリテーション特論 視覚障害リハビリテーション特論 聴覚障害情報保障特論 視覚障害情報保障特論	聴覚障害教育特論 聴覚障害情報保障システム特論 聴覚障害コミュニケーション技術演習 聴覚障害学特論	視覚障害教育特論 視覚障害情報保障システム特論 点字・ロービジョンケア技術特論 視覚障害アクセシビリティプログラミング特論 視覚障害アクセシビリティプログラミング演習	手話言語学特論 手話言語学・教育演習 ろう者学教育コンテンツ特論 手話言語教育特論 手話通訳特論 手話通訳演習	[必修] 情報アクセシビリティ 特別研究1
			障害学生支援コーディネート特論 障害学生支援コーディネート実習1 障害者就労支援特論 特別支援教育情報保障特論 障害者支援演習		
2年次		聴覚障害教育特論 聴覚障害情報保障システム特論 聴覚障害コミュニケーション技術演習 聴覚障害学特論	視覚障害教育特論 視覚障害情報保障システム特論 点字・ロービジョンケア技術特論 視覚障害アクセシビリティプログラミング特論 視覚障害アクセシビリティプログラミング演習	手話言語学特論 手話言語学・教育演習 ろう者学教育コンテンツ特論 手話言語教育特論 手話通訳特論 手話通訳演習	[必修] 情報アクセシビリティ 特別研究2
			障害学生支援コーディネート実習2 障害者支援演習		
修了に必要な 修得単位	(「情報アクセシビリティ研究特論1」または「情報アクセシビリティ研究特論2」から2単位以上を含め)6単位以上	14単位以上			10単位

[参考]情報アクセシビリティ専攻の教育課程編成（令和6年度入学者対象）

履修年次	基盤科目	専 門 科 目			
	共通科目	障害者支援コース		手話教育コース	特別研究科目
		聴覚障害	視覚障害		
1年次	[選択必修]情報アクセシビリティ研究特論1 [選択必修]情報アクセシビリティ研究特論2 聴覚障害リハビリテーション特論 視覚障害リハビリテーション特論 聴覚障害情報保障特論 視覚障害情報保障特論	聴覚障害教育特論 聴覚障害情報保障システム特論 聴覚障害コミュニケーション技術演習 聴覚障害学特論	視覚障害教育特論 視覚障害情報保障システム特論 点字・ロービジョンケア技術特論 視覚障害アクセシビリティプログラミング特論 視覚障害アクセシビリティプログラミング演習	手話言語学特論 手話言語学・教育演習 ろう者学教育コンテンツ特論 手話言語教育特論 手話通訳特論 手話通訳演習	[必修] 情報アクセシビリティ 特別研究1A、1B
		障害学生支援コーディネート特論 障害学生支援コーディネート実習1 障害者就労支援特論 特別支援教育情報保障特論 障害者支援演習			
2年次		聴覚障害教育特論 聴覚障害情報保障システム特論 聴覚障害コミュニケーション技術演習 聴覚障害学特論	視覚障害教育特論 視覚障害情報保障システム特論 点字・ロービジョンケア技術特論 視覚障害アクセシビリティプログラミング特論 視覚障害アクセシビリティプログラミング演習	手話言語学特論 手話言語学・教育演習 ろう者学教育コンテンツ特論 手話言語教育特論 手話通訳特論 手話通訳演習	[必修] 情報アクセシビリティ 特別研究2A、2B
		障害学生支援コーディネート実習2 障害者支援演習			
修了に必要な 修得単位	(「情報アクセシビリティ研究特論1」または「情報アクセシビリティ研究特論2」から2単位以上を含め)6単位以上	14単位以上		10単位	

[参考]情報アクセシビリティ専攻の教育課程編成（令和7年度以降入学者対象）

履修年次	基盤科目	専門科目			
	共通科目	障害者支援(聴覚障害)コース・手話教育		障害者支援(視覚障害)コース	特別研究科目
1年次	[必修]情報アクセシビリティ研究特論 聴覚障害リハビリテーション特論 視覚障害リハビリテーション特論 聴覚障害情報保障特論 視覚障害情報保障特論	聴覚障害教育特論 聴覚障害情報保障システム特論 聴覚障害学特論	手話言語学特論 ろう者学教育コンテンツ特論 手話言語教育特論 手話通訳特論	視覚障害教育特論 視覚障害アクセシビリティプログラミング特論 ラミング特論 点字・ロービジョンケア特論	[必修] 情報アクセシビリティ特別研究1A、1B
		障害学生支援コーディネーター特論 障害学生支援コーディネーター実習1 障害者就労支援特論			
2年次		聴覚障害教育特論 聴覚障害情報保障システム特論 聴覚障害学特論	手話言語学特論 ろう者学教育コンテンツ特論 手話言語教育特論 手話通訳特論	視覚障害教育特論 視覚障害アクセシビリティプログラミング特論 ラミング特論 点字・ロービジョンケア特論	[必修] 情報アクセシビリティ特別研究2A、2B
		障害学生支援コーディネーター実習2			
修了に必要な修得単位	必修科目2単位	18単位以上(コース指定選択科目2単位以上を含む。) ※障害者支援(聴覚障害)コースと手話教育コースは共通			10単位

VI授業時間割

※開講曜時限及び教室については、履修者決定後、変更することがあります。

令和8年度授業時間割表

時限		曜日	月	火	水	木	金
第一学期	1	8:50 ~ 10:20	(共通・必須) 情報アクセシビリティ研究特論 三好、金堀、中島(幸)、天野、 新井、宮城、神村、小林(ゆ)		(聴覚・手話・選択) 聴覚障害教育特論 長南、新井、笹目、中島(幸)		
	2	10:30 ~ 12:00			(聴覚・手話・選択) 手話言語学特論 大杉		
	3	13:00 ~ 14:30		(聴覚・手話・選択) 聴覚障害学特論 大杉、小林(洋)、四日市			
	4	14:40 ~ 16:10	(共通・選択) 視覚障害リハビリテーション特論 伊藤、田中、宮城	(共通・選択) 聴覚障害情報保障特論 白澤、笹目			
	5	16:20 ~ 17:50	282(春日)	(共通・選択) 視覚障害情報保障特論 宮城、三好			
	6			282(春日) ※ 一部集中			
その他集中講義等		障害学生支援コーディネーター実習2(中島(亜)、白澤)、聴覚障害情報保障システム特論(三好、磯田)、聴覚障害リハビリテーション特論(長南、笹目)、 情報アクセシビリティ特別研究1・2、情報アクセシビリティ特別研究1A・1B・2A・2B					
第二学期	1	8:50 ~ 10:20		(視覚・選択) 視覚障害教育特論 伊藤、天野、金堀、小林(ゆ)、 嶋			
	2	10:30 ~ 12:00		(選択) 障害学生支援コーディネーター特論 白澤、○	(聴覚・手話・選択) 手話言語教育特論 大杉		(聴覚・手話・選択) 手話通訳特論 白澤
	3	13:00 ~ 14:30	(視覚・選択) 視覚障害アクセシビリティ プログラミング特論 金堀	(視覚・選択) 点字・ロービジョンケア特論 田中、宮城、伊藤	(聴覚・手話・選択) ろう者学教育コンテンツ特論 小林(洋)		
	4	14:40 ~ 16:10	282(春日)	282(春日)	S202(天久保)		
	5	16:20 ~ 17:50					
	6						
その他集中講義等		障害学生支援コーディネーター実習1(中島(亜)、白澤)、障害学生支援コーディネーター実習2(中島(亜)、白澤)、障害者就労支援特論(長南、松為)、 情報アクセシビリティ特別研究1・2、情報アクセシビリティ特別研究1A・1B・2A・2B					

VII 科目表

※開講曜時限及び教室については、履修者決定後、変更することがあります。

情報アクセシビリティ専攻授業科目一覧

【令和7年度以降入学者対象】

区分	科目番号	授業科目名	授業方法	単位数	必修・選択の別	履修年次	修了所要単位数		
基盤科目	共通科目	A1115	情報アクセシビリティ研究特論	講義	2	必修	1	2単位	
		A1130	聴覚障害リハビリテーション特論	講義	2	選択	1		
		A1140	視覚障害リハビリテーション特論	講義	2	選択	1		
		A1150	聴覚障害情報保障特論	講義	2	選択	1		
		A1160	視覚障害情報保障特論	講義	2	選択	1		
専門科目	コース指定選択科目	障害者支援（聴覚障害）手話教育コース	A2110	聴覚障害教育特論	講義	2	選択	1, 2	18単位以上（コース指定選択科目2単位以上を含む。） ※障害者支援（聴覚障害）コースと手話教育コースは共通
			A2120	聴覚障害情報保障システム特論	講義	2	選択	1, 2	
			A2140	聴覚障害学特論	講義	2	選択	1, 2	
			A2310	手話言語学特論	講義	2	選択	1, 2	
			A2330	ろう者学教育コンテンツ特論	講義	2	選択	1, 2	
		A2340	手話言語教育特論	講義	2	選択	1, 2		
		A2350	手話通訳特論	講義	2	選択	1, 2		
		障害者支援（視覚障害）コース	A2210	視覚障害教育特論	講義	2	選択	1, 2	
			A2235	視覚障害アクセシビリティプログラミング特論	講義	2	選択	1, 2	
			A2250	点字・ロービジョンケア特論	講義	2	選択	1, 2	
	A2520		障害学生支援コーディネート特論	講義	2	選択	1		
	選択科目	A2530	障害学生支援コーディネート実習1	実習	1	選択	1		
		A2540	障害学生支援コーディネート実習2	実習	2	選択	2		
		A2550	障害者就労支援特論	講義	2	選択	1		
		特別研究科目	A9100	情報アクセシビリティ特別研究1A	演習	2	必修	1	
	A9101		情報アクセシビリティ特別研究1B	演習	2	必修	1		
	A9110		情報アクセシビリティ特別研究2A	演習	3	必修	2		
	A9111		情報アクセシビリティ特別研究2B	演習	3	必修	2		
	修了要件単位合計							30単位以上	

情報アクセシビリティ専攻授業科目一覧

【令和6年度入学者対象】

区分	科目番号	授業科目名	授業方法	単位数	必修・選択の別	履修年次	修了所要単位数		
基盤科目	共通科目	A1110	情報アクセシビリティ研究特論1	講義	2	選択	1	2単位以上	
		A1120	情報アクセシビリティ研究特論2	講義	2	選択	1		
		A1130	聴覚障害リハビリテーション特論	講義	2	選択	1	6単位以上	
		A1140	視覚障害リハビリテーション特論	講義	2	選択	1		
		A1150	聴覚障害情報保障特論	講義	2	選択	1		
		A1160	視覚障害情報保障特論	講義	2	選択	1		
専門科目	コース指定選択科目	聴覚障害	A2110	聴覚障害教育特論	講義	2	選択	1, 2	14単位以上(コース指定選択科目6単位以上を含む。)
			A2120	聴覚障害情報保障システム特論	講義	2	選択	1, 2	
			A2130	聴覚障害コミュニケーション技術演習	演習	2	選択	1, 2	
			A2140	聴覚障害学特論	講義	2	選択	1, 2	
		視覚障害	A2210	視覚障害教育特論	講義	2	選択	1, 2	
			A2220	視覚障害情報保障システム特論	講義	2	選択	1, 2	
			A2230	点字・ロービジョンケア特論	講義	2	選択	1, 2	
			A2235	視覚障害アクセシビリティプログラミング特論	講義	2	選択	1, 2	
		手話教育	A2240	視覚障害アクセシビリティプログラミング演習	演習	2	選択	1, 2	
			A2310	手話言語学特論	講義	2	選択	1, 2	
			A2320	手話言語学・教育演習	演習	2	選択	1, 2	
			A2330	ろう者学教育コンテンツ特論	講義	2	選択	1, 2	
	A2340		手話言語教育特論	講義	2	選択	1, 2		
	A2350		手話通訳特論	講義	2	選択	1, 2		
	選択科目	A2360	手話通訳演習	演習	1	選択	1, 2		
		A2520	障害学生支援コーディネータート論	講義	2	選択	1		
		A2530	障害学生支援コーディネータート実習1	実習	1	選択	1		
		A2540	障害学生支援コーディネータート実習2	実習	2	選択	2		
		A2550	障害者就労支援特論	講義	2	選択	1		
		A2560	特別支援教育情報保障特論	講義	2	選択	1		
	特別研究科目	A2570	障害者支援演習	演習	1	選択	1, 2		
		A9100	情報アクセシビリティ特別研究1A	演習	2	必修	1	10単位	
		A9101	情報アクセシビリティ特別研究1B	演習	2	必修	1		
		A9110	情報アクセシビリティ特別研究2A	演習	3	必修	2		
	A9111	情報アクセシビリティ特別研究2B	演習	3	必修	2			
	修了要件単位合計							30単位以上	

情報アクセシビリティ専攻授業科目一覧

【令和5年度以前入学者対象】

区分	科目番号	授業科目名	授業方法	単位数	必修・選択の別	履修年次	修了所要単位数			
基盤科目	共通科目	A1110	情報アクセシビリティ研究特論1	講義	2	選択	1	2単位以上		
		A1120	情報アクセシビリティ研究特論2	講義	2	選択	1			
		A1130	聴覚障害リハビリテーション特論	講義	2	選択	1	6単位以上		
		A1140	視覚障害リハビリテーション特論	講義	2	選択	1			
		A1150	聴覚障害情報保障特論	講義	2	選択	1			
		A1160	視覚障害情報保障特論	講義	2	選択	1			
専門科目	コース指定選択科目	障害者支援	聴覚障害	A2110	聴覚障害教育特論	講義	2	選択	1, 2	14単位以上(コース指定選択科目6単位以上を含む。)
				A2120	聴覚障害情報保障システム特論	講義	2	選択	1, 2	
			A2130	聴覚障害コミュニケーション技術演習	演習	2	選択	1, 2		
			A2140	聴覚障害学特論	講義	2	選択	1, 2		
		視覚障害	A2210	視覚障害教育特論	講義	2	選択	1, 2		
			A2220	視覚障害情報保障システム特論	講義	2	選択	1, 2		
			A2230	点字・ロービジョンケア特論	講義	2	選択	1, 2		
			A2235	視覚障害アクセシビリティプログラミング特論	講義	2	選択	1, 2		
			A2240	視覚障害アクセシビリティプログラミング演習	演習	2	選択	1, 2		
			手話教育	A2310	手話言語学特論	講義	2	選択	1, 2	
		A2320		手話言語学・教育演習	演習	2	選択	1, 2		
		A2330		ろう者学教育コンテンツ特論	講義	2	選択	1, 2		
		A2340		手話言語教育特論	講義	2	選択	1, 2		
		A2350		手話通訳特論	講義	2	選択	1, 2		
	A2360	手話通訳演習		演習	1	選択	1, 2			
	選択科目	A2520	障害学生支援コーディネート特論	講義	2	選択	1			
		A2530	障害学生支援コーディネート実習1	実習	1	選択	1			
		A2540	障害学生支援コーディネート実習2	実習	2	選択	2			
		A2550	障害者就労支援特論	講義	2	選択	1			
		A2560	特別支援教育情報保障特論	講義	2	選択	1			
		A2570	障害者支援演習	演習	1	選択	1, 2			
	特別研究科目	A9100	情報アクセシビリティ特別研究1	演習	4	必修	1	10単位		
		A9110	情報アクセシビリティ特別研究2	演習	6	必修	2			
	修了要件単位合計							30単位以上		

令和8年度 情報アクセシビリティ専攻 教育課程

基盤科目

※S…学生支援棟(天久保キャンパス)

区分	科目番号	授業科目	単位数	標準履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
共通科目	A1115	情報アクセシビリティ研究特論	2	1	必修	1	月1 S202 (天久保)	三好茂樹 金堀利洋 宮城愛美 天野和幸 中島達也 新井幸蔵 神村幸也 小林ゆきの	聴覚障害、視覚障害における情報アクセシビリティについて概説する。またそれぞれの障害における情報保障技術、生理学的側面、研究データの解釈・統計的分析、合理的配慮、障害者スポーツに関する講義を通じて、研究倫理を含め、研究計画、研究方法を学ぶ。加えて、情報アクセシビリティに関する英語論文の読み方を学び、その上で、情報アクセシビリティに関する先行研究の文献的考察を行う能力を養う。	令和6年度以前の「情報アクセシビリティ研究特論1」「情報アクセシビリティ研究特論2」を統合
	A1130	聴覚障害リハビリテーション特論	2	1	選択	1	集中	長南浩人 笹目友香	聴覚リハビリテーションに関連する聴覚障害の心理、生理、病理に関する解説を行う。これに加え、聴覚障害アセスメントや心理アセスメント、指導法についても取りあげる。さらには、音声言語の獲得や認知能力に関するリハビリテーションの方法も説明する。	
	A1140	視覚障害リハビリテーション特論	2	1	選択	1	月4 282 (春日)	伊藤和之 田中仁美 宮城愛美	視覚障害者のQOLは、情報アクセスの実現によって大きく変化する。また、視覚障害者の生活では様々な福祉制度により情報保障が行われている。リハビリテーションの場面では、個々の障害の状況を把握し、情報アクセスを中心とした様々なスキルの訓練が行われる。本科目では、視覚障害アセスメントを始めとした医学的リハビリテーション、障害の受容に関わる心理的リハビリテーション、日常生活における歩行やコミュニケーション等の社会リハビリテーション及び就労・復職に関する職業リハビリテーション等について解説する。	
	A1150	聴覚障害情報保障特論	2	1	選択	1	火4 S202 (天久保)	白澤麻弓 笹目友香	聴覚障害者の社会参加や就学環境の整備のために情報保障は欠かせないものである。本講義では、聴覚障害者に対する情報保障の理念と手段について広く概観するとともに、手話通訳や文字通訳を中心とする情報保障技術及び補聴援助技術についての基本的知識、現状や課題、最新の研究動向並びに諸外国の状況等について解説する。	平成28年度までのA1103に相当
	A1160	視覚障害情報保障特論	2	1	選択	1	火5 282 (春日)	宮城愛美 三好茂樹	視覚障害者の情報アクセスは、障害の状況やアクセススキルの習熟度に応じて、聴覚、触覚、残存視力のいずれか、あるいは、それらの併用によって行われる。したがって、視覚障害者に対する情報保障では、個々のアクセス方法に即した形態の情報を提供する必要がある。そこで、それぞれの感覚の特性についての基本を学ぶとともに、各感覚向けの情報コンテンツを制作するためのメディア変換の技法や関連する知識を実践的に修得する。さらに、情報保障・支援技術としてのAIの基礎や活用について学ぶ。	平成28年度までのA1104に相当

専門科目

コース指定選択科目(障害者支援(聴覚障害)コース・手話教育コース共通)

区分	科目番号	授業科目	単位数	標準履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限教室	担当教員	授業概要	備考
コース指定選択科目 (障害者支援(聴覚障害)コース・手話教育コース共通)	A2110	聴覚障害教育特論	2	1・2	選択	1	水1 S202 (天久保) ※一部集中の可能性あり	長南浩人 笹目友香 中島幸則 新井達也	聴覚障害児の教育について、言語と認知、日本語及び外国語の習得、数学、運動の発達に加え、音声の発達に関する理論及び指導法の修得を目標とし、これらに関する知見を講義する。	
	A2120	聴覚障害情報保障システム特論	2	1・2	選択	1	集中	三好茂樹 磯田恭子	聴覚障害者に対する情報保障手段としての遠隔情報法保障技術や音声認識技術等に関して概説し、それらの具体的な構築や運用体験を通して学習を深め、現状の課題や最新技術動向並びに諸外国の状況等についても解説する。	
	A2140	聴覚障害学特論	2	1・2	選択	1	火3 S202 (天久保)	大杉豊 小林洋子 (四日市章)	世界保健機関(WHO)の「国際生活機能分類」の枠組みで、国内外の障害者に関する法規、聴覚障害のある者の障害内容、障害受容、障害認識及び聴覚障害教育の現状、そして彼らの社会参加を妨げる様々な障壁に関する知見を講義し、保健・医療・福祉サービス、社会システムや技術のあり方の方向性を論ずる。	

専門科目

コース指定選択科目(障害者支援(聴覚障害)コース・手話教育コース共通)

区分	科目番号	授業科目	単位数	標準履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
コース指定選択科目(障害者支援(聴覚障害)コース・手話教育コース共通)	A2310	手話言語学特論	2	1・2	選択	1	水2 S202 (天久保)	大杉 豊	手話言語の言語学的な特性に関する知識を深めることを目標とし、音声体系の言語事象を対象に発展してきた言語学の各論(音韻論、形態論、語彙論、統辞論、談話論、歴史言語学、比較言語学、社会言語学)を参照しつつ、手話(身振り)体系の言語としての手話言語の特徴に関する知見を講義する。	
	A2330	ろう者学教育コンテンツ特論	2	1・2	選択	2	水3 S202 (天久保)	小林 洋子	聴覚障害児の「文化的なろう者」としてのアイデンティティ確立への支援及び手話通訳等の養成を含む教育一般におけるろう者文化の指導に関する理論と方法の修得を目標とし、本学のろう者学教育コンテンツの整備状況と活用技術、そして国内外の様々なリソースから教育に活用可能なものを教育コンテンツとして活用する技術に焦点を当てる。	
	A2340	手話言語教育特論	2	1・2	選択	2	水2 S202 (天久保)	大杉 豊	第二言語教授法と言語評価法に関する理論と方法の修得を目標とし、これらに関する知見を講義する。音声言語の語学教育における様々な指導法と指導例を参照しつつ、各場面に対応した手話言語の教授法及び技能評価法を論ずる。そして手話言語教育のシラバス作成技術を習得する。	
	A2350	手話通訳特論	2	1・2	選択	2	金2 S202 (天久保)	白澤 麻弓	音声言語による同時通訳研究や米国の手話通訳研究により構築されてきた諸理論を概観し、各種通訳モデルの内容について学習することで、手話通訳のプロセス並びにメカニズムについて理解する。加えて、米国を中心とした諸外国の手話通訳者養成や評価・認定の取り組み及びこの背景にある理論を学習することで、日本の手話通訳実践のあり方を検証する。	

専門科目

コース指定選択科目(障害者支援(視覚障害)コース)

区分	科目番号	授業科目	単位数	標準履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
コース指定選択科目(障害者支援(視覚障害)コース)	A2210	視覚障害教育特論	2	1・2	選択	2	火1 282 (春日)	伊藤和彦 天野利洋 金堀利洋 小林ゆきの 嶋俊樹	視覚障害者の情報アクセシビリティの向上を図るには、情報コンテンツやアクセス手段の改善とともに、各自のアクセス力を高めるための教育が重要である。わが国の視覚障害者の教育制度や視覚障害者の発達特性を理解するとともに、個々のニーズに応じた教育を実現するための具体的な方策や課題を実践的に修得する。	
	A2235	視覚障害アクセシビリティプログラミング特論	2	1・2	選択	2	月3 282 (春日)	金堀利洋	システム開発を、ソフトウェアとして実現するために必要とされる基礎技術から、接続するハードウェア、ネット連携に必要な基礎知識を踏まえた上で、実践と実機を使いながら、商用レベルで提供されているパソコン、携帯端末、視覚障害情報保障機器を対象として、障害補償システムの構築を理解する。最終目標として、使用者にとって使い勝手の良いシステム提供にも言及する。	平成30年度のA2250に相当
	A2250	点字・ロービジョンケア特論	2	1・2	選択	2	火3 282 (春日)	田中仁美 宮城愛之 伊藤和之	重度視覚障害者が点字を使いこなせるようになるまた、軽度・中度視覚障害者が残存する視機能をロービジョンケアによって活用できるようになることは、情報化社会でより豊かな生活を送るうえで非常に重要である。本講義では、点字成立の過程、パソコンを使った点訳及びルーペなどの情報保障機器を使用したロービジョンケアなどを、実際に点訳作業やロービジョングッズのフィッティングなど演習を行いながら学んでいく。	平成28年度までのA2203「点字・ロービジョンケア技術演習」に相当 平成29年度から平成30年度までのA2230「点字・ロービジョンケア技術演習」に相当 令和元年度から令和6年度までのA2230「点字・ロービジョンケア技術特論」に相当

専門科目

選択科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	標準履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限教室	担当教員	授業概要	備考
選 択 科 目	A2520	障害学生支援コーディネート特論	2	1	選択	2	火2 S201 (天久保)	白澤麻弓 萩原彩子	大学等の高等教育機関で障害学生への支援を進めていくためには、支援ニーズの把握から支援内容の決定、支援者の確保や養成・配置といったコーディネート業務が不可欠である。本講義では、全国の高等教育機関における障害学生支援の現状について概観したのち、実際の障害学生支援室で行われているさまざまな支援業務について、ゲスト講師による事例を通して学修するとともに、国の政策動向や諸外国の障害学生支援の現状について学ぶことで、コーディネートに必要な基礎知識を修得する。	
	A2530	障害学生支援コーディネート実習1	1	1	選択	2	集中 S201 (天久保)	中島亜紀子 白澤麻弓	大学等の高等教育機関において障害学生支援コーディネーターなどの業務に従事するためには、支援に関わる実践的な技術が不可欠である。本実習では、2年次に行われる障害学生支援コーディネート実習に向けて、実際の大学現場における障害学生支援コーディネートの実際について学ぶとともに、実習希望大学の支援状況に関する調査やヒアリング等を通して、実習に臨むための事前知識を習得する。	
	A2540	障害学生支援コーディネート実習2	2	2	選択	1・2	集中 S201 (天久保)	中島亜紀子 白澤麻弓	大学等の高等教育機関において障害学生支援コーディネーターなどの業務に従事するためには、支援に関わる実践的な技術が不可欠である。本実習では、実際の大学・機関において1ヶ月以上の実習を経験することで、大学における障害学生支援室の実際について学ぶ。あわせて、実習の前後には大学におけるコーディネーターの立場や業務内容、学内関係部署との連携のあり方、障害学生との関わり方等について学習することで、実際の現場で求められる技術の修得を目指す。	
	A2550	障害者就労支援特論	2	1	選択	2	集中	長南浩人	キャリア支援に基づく職業リハビリテーション学の理念・理論・知識・技術を総合的に把握する。働くことの意義や、職業リハビリテーションの概念・定義・理念・支援過程とキャリアに関する理論を踏まえて、個人理解の基盤(アセスメントや支援計画と個人特性の理解、障害や職業・生活の理解、自己理解、能力開発)と、環境調整の基盤(雇用・福祉施策、雇用の推進、職場定着支援、メンタルヘルスと組織内キャリア、復職・離転職と引退)について検討する。	※ゲストスピーカー： 松為信雄氏

専門科目

特別研究科目【令和6年度以降入学者対象科目】

区分	科目番号	授業科目	単位数	標準履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限教室	担当教員	授業概要	備考
特別研究科目	A9100	情報アクセシビリティ特別研究1A	2	1	必修	集中		伊藤和之 大杉豊 長南浩人 三好茂樹 白澤麻弓 中島幸則 新井達也 金堀利洋 小林ゆきの 小林洋子 田中仁 宮城愛美 青木千帆子 笹目友香	情報アクセシビリティに関する領域から、各教員と協議の上で決定したテーマを通じて、文献検索の方法、データの集積及び解析、プレゼンテーション技法等を演習形式で学ぶ。	【令和6年度以降入学者対象科目】
	A9101	情報アクセシビリティ特別研究1B	2	1	必修	集中		伊藤和之 大杉豊 長南浩人 三好茂樹 白澤麻弓 中島幸則 新井達也 金堀利洋 小林ゆきの 小林洋子 田中仁 宮城愛美 青木千帆子 笹目友香	情報アクセシビリティに関する領域から、各教員と協議の上で決定したテーマを通じて、文献検索の方法、データの集積及び解析、プレゼンテーション技法等を演習形式で学ぶ。	【令和6年度以降入学者対象科目】
	A9110	情報アクセシビリティ特別研究2A	3	2	必修	集中		伊藤和之 大杉豊 長南浩人 三好茂樹 白澤麻弓 中島幸則 新井達也 金堀利洋 小林ゆきの 小林洋子 田中仁 宮城愛美 青木千帆子 笹目友香	情報アクセシビリティに関する領域から、各教員と協議の上で決定したテーマを通じて、データ収集及びデータ解析に関わる事項について学ぶ。授業担当教員から課せられた課題について、年間を通して自由に学習、調査、研究を行いその成果について報告する。	【令和6年度以降入学者対象科目】
	A9111	情報アクセシビリティ特別研究2B	3	2	必修	集中		伊藤和之 大杉豊 長南浩人 三好茂樹 白澤麻弓 中島幸則 新井達也 金堀利洋 小林ゆきの 小林洋子 田中仁 宮城愛美 青木千帆子 笹目友香	情報アクセシビリティに関する領域から、各教員と協議の上で決定したテーマを通じて、データ収集及びデータ解析に関わる事項について学ぶ。授業担当教員から課せられた課題について、年間を通して自由に学習、調査、研究を行いその成果について報告する。	【令和6年度以降入学者対象科目】

専門科目

特別研究科目【令和5年度以前入学者対象科目】

区分	科目番号	授業科目	単位数	標準履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限教室	担当教員	授業概要	備考
特別研究科目	A9000	情報アクセシビリティ特別研究1A	4	1	必修	1・2		伊藤和之 大杉豊 長南浩人 三好茂樹 白澤麻弓 中島幸則 新井達也 金堀利洋 小林ゆきの 小林洋子 田中仁 宮城愛美 青木千帆子 笹目友香	情報アクセシビリティに関する領域から、各教員と協議の上で決定したテーマを通じて、文献検索の方法、データの集積及び解析、プレゼンテーション技法等を演習形式で学ぶ。	【令和5年度以前入学者対象科目】
	A9110	情報アクセシビリティ特別研究2	6	2	必修	1・2		伊藤和之 大杉豊 長南浩人 三好茂樹 白澤麻弓 中島幸則 新井達也 金堀利洋 小林ゆきの 小林洋子 田中仁 宮城愛美 青木千帆子 笹目友香	情報アクセシビリティに関する領域から、各教員と協議の上で決定したテーマを通じて、データ収集及びデータ解析に関わる事項について学ぶ。授業担当教員から課せられた課題について、年間を通して自由に学習、調査、研究を行いその成果について報告する。	【令和5年度以前入学者対象科目】

令和6年度以前入学者対象の旧カリキュラムにおける科目【令和8年度は開講しない科目】

区分	科目番号	授業科目	単位数	標準履修年次	必修・選択	実施学期	曜時限教室	担当教員	授業概要	備考	
基盤科目	共通科目	A1110	情報アクセシビリティ研究特論1	2	1	選択	—	—	—	聴覚障害、視覚障害における情報アクセシビリティについて概説する。またそれぞれの障害における生理学的側面、研究データの解釈、合理的配慮、障害者スポーツ、特別支援教育における情報アクセシビリティに関する講義を通じて、研究計画、研究方法を学ぶ。	令和8年度は開講しない
		A1120	情報アクセシビリティ研究特論2	2	1	選択	—	—	—	聴覚障害、視覚障害の情報アクセシビリティに関する英語論文の読み方を学ぶ。その上で、情報アクセシビリティに関する先行研究の文献的考察を行う。さらに、修士論文の執筆にあたっての論文構成について学ぶ。	令和8年度は開講しない
専門科目	障害者支援（聴覚障害）コース コース指定選択科目	A2130	聴覚障害コミュニケーション技術演習	2	1・2	選択	—	—	—	聴覚障害児・者とコミュニケーションする際の技術の修得を目標とし、これに関する演習を行う。具体的には、聴覚障害者が用いるコミュニケーション手段である、手話や指文字、キュードスピーチなどの手指記号、音声、文字を取り上げる。これらの手段は、聴覚障害者の障害の程度や年代、失聴年齢、言語力など障害者の障害に関する要因及び補聴機器等の種類といった聴覚学的要因によって利用のしかたを変える必要があることから、本演習では、左記の両要因に関する知見も取り上げる。	令和8年度は開講しない
		A2220	視覚障害情報保障システム特論	2	1・2	選択	—	—	—	視覚障害者が情報アクセスを行うためには、何らかの障害補償機器が必要となる。障害補償機器は、弱視と全盲では使い勝手が異なり、それぞれに合った形で提供され情報保障が成されるもので、本講義では、ハードウェア及びソフトウェアの両面から視覚障害情報保障システムに求められる機能・役割、さらには実現可能な新技術に触れ、役に立つ実践的な視覚障害情報保障システムについて学ぶ。	令和8年度は開講しない
		A2240	視覚障害アクセシビリティプログラミング演習	2	1・2	選択	—	—	—	講義科目「視覚障害情報保障システム特論」の内容を、より現実的な課題として実現するためのシステム開発を、ソフトウェアとして実現するには、何が必要で、何が求められているかを探求しながら、実践的な開発を、演習を通じて行う。システム開発を行う上では、OSの基礎、Python, C, Java, マクロ等ある程度の応用プログラミングの経験と知識を要し、商業レベルで提供されているパソコン、携帯端末、視覚障害情報保障機器を対象として、視覚障害者にとって使い勝手の良いシステムの提供が出来る力を付けることを目指す。	令和8年度は開講しない
コース指定選択科目	手話教育コース	A2320	手話言語学・教育演習	2	1・2	選択	—	—	—	「手話言語学特論」及び「手話言語教育特論」で得た知識をもとに、将来手話言語の語学指導ないし技能評価に携わることが想定し、手話言語データの分析演習及び、手話言語指導計画・教材準備の演習を行う。	令和8年度は開講しない
		A2360	手話通訳演習	1	1・2	選択	—	—	—	「手話通訳特論」で学んだ通訳の諸理論・モデルを念頭に、実際に手話通訳データを収録し、観察分析の手法に基づいて分析・検討する過程を体験することで、手話通訳がどのように研究されるのかを学習する。上記の分析作業を通して、個々の手話通訳者にとっての課題や長所を発見し、養成・研修に繋げる視点を学ぶ。	令和8年度は開講しない

専 門 科 目	選 択 科 目	A2560	特別支援教育情報保障特論	2	1	選択	—	—	—	特別支援学校、特別支援学級及び一般の小学校、中学校、高等学校等で学ぶ聴覚障害児者、視覚障害児者に対する教育的支援について、教育的観点から、情報保障の現状と課題について解説する。また児童、生徒の発達段階と教育現場の実情に即した情報保障の具体的手法について論じる。さらに学校等において最新の情報保障方法を活用した教育支援を試行し、教育現場における情報保障を体験するとともに、教育効果を検証することで、実践的かつ効果的な情報保障技術の修得を目指す。	令和8年度は開講しない
		A2570	障害者支援演習	1	1・2	選択	—	—	—	肢体不自由、病弱・虚弱、精神障害、発達障害について概説する。その上で、複数の障害(特別な教育的ニーズ)を併せ有する障害児童・生徒・学生(発達障害、肢体不自由、病弱・虚弱、精神障害を併せ有する重複障害及び視覚・聴覚二重障害(盲ろう))の理解を深め、支援の在り方について検討する。内容としては学習環境の整備、学習支援及び生活支援の実際を取り上げる。	令和8年度は開講しない

VII 授業計画書（シラバス）

下記リンクより令和8年度のシラバスを検索してください。

<https://aims.ad.tsukuba->

[tech.ac.jp/aa_web/syllabus/se0010.aspx?me=EG&opi=mt0010](https://aims.ad.tsukuba-tech.ac.jp/aa_web/syllabus/se0010.aspx?me=EG&opi=mt0010)



Ⅸ 関係規則

- ・学則に関する内容は下記 QR コードからご参照ください。



- ・学生生活に関する規程は下記 QR コードからご参照ください。



- ・履修規程や研究指導に関する規程といった教務関係は下記 QR コードからご参照ください。

